

J A E S C O



写真/シノムラ化学工業株式会社静岡工場

Table of Contents

- 1 Topics
高まるESCOへの関心
アジアへの展望、日本における可能性
- 2-3 Interview
シノムラ化学工業株式会社
成瀬武志さん
- 4-5 News and Report / JAESCO
ESCO推進協議会
第6回コンファレンス報告
ENEX2007出展報告
- 6-7 News and Report / JAESCO
「アジアESCOシンポジウム」を終えて
アジア太平洋LNG市場の動向
- 8 Information
新会員リスト
第2回会員対象セミナー報告
第2回優良ESCO事業結果発表
ESCO推進協議会/今後の予定
事務局から

JAESCO

ESCO推進協議会ニュースレター vol.15

発行日 2007年3月30日
 発行 ESCO推進協議会
 (JAESCO: Japan Association of
 Energy Service Companies)
 〒102-0094
 東京都千代田区紀尾井町3-29
 紀尾井町福田ビル3階
 (株)住環境計画研究所内
 Tel. 03-3234-2228
 Fax. 03-3234-2226
 URL <http://www.jaesco.gr.jp>

編集協力 財団法人 省エネルギーセンター出版部
 FOUNTAINHEAD
 写真撮影 田沼洋一(1頁左、2-3頁)
 印刷 萩原印刷株式会社

Topics

高まるESCOへの関心 アジアへの展望、日本における可能性



茅 陽一

ESCO推進協議会 会長
 財団法人地球環境産業技術研究機構 副理事長/研究所長

ESCO事業とアジア

今回、「アジアESCOシンポジウム」を企画して、想像以上に東南アジア諸国でのESCOへの関心が高まっており、現実動き出しているという感を持ちました。

これまで、東南アジア諸国における省エネルギーについては、個々の企業はもちろん問題意識を持っているけれど、地球温暖化といった大きな問題を見据えてコミットメントする、という形にはなかなかありませんでした。しかし、ESCOにはそうした状況を変えていく可能性があります。

いわゆる発展途上国の省エネルギーを考えた場合、産業分野が重要なのはもちろんなのですが、業務分野にとりわけ注目しています。産業においては、国際市場が相手になりますから必然的に省エネルギーの必要性が認識されます。しかし、これは日本にも言えることですが、建物というのは、それ自体では競争にさらされません。だからどうしても後回しにされる傾向がある。

いわゆる東南アジア諸国には、人口が過密で熱帯、亜熱帯という地域が多い。キーワードは「冷房」ですね。ご存じのように、業務分野で大きいのはビル、建物における冷房と、これにも関わりますが電気機器類のエネルギー消費です。これが実は無視できない消費量になっています。先進諸国では、暖房については経験を積んできていますが、冷房に対する省エネルギーというのはさほど強くない。日本の場合もどちらかといえば暖房に対

する省エネルギー技術が先行しましたが、それでも百貨店などの業務ビルにおける空調関係の改善など、冷房での実績は決して小さくありません。今後、東南アジア諸国におけるそれぞれの気候、文化をどう把握して、知識を供給できるか。それがこれからもっとも重要になってくると思います。ESCO導入における効果は非常に大きいと考えています。

日本での展開

日本においては、ESCOにとどまらず、ESPなど、省エネルギーに関わって様々な事業が広がってきました。ESCOにとってもそれはいいことだと思っています。JAESCOでの分析にもありますように、のびしろはまだあります。例えば産業分野においても、工場の機器そのものではなく、工場建物でのエネルギー消費をどう抑えるのか。これはESCOが得意とする分野ですね。

長期的には、業務分野における省エネルギーをどう進めるかという課題は依然としてあります。しかし構造的に容易ではない面もある。JAESCOのメンバー各社はよくがんばっていると思うのです。本来、省エネルギーというのは、各企業が自立的に達成していくことができると私は考えますが、地球温暖化ということを考えた場合、政府からのインセンティブというのがどうしても必要です。こうした働きかけも行っていきたいですね。

(2007年2月23日採録)



成瀬武志さん

シノムラ化学工業株式会社
静岡工場
施設部施設課 課長

聞き手 ● ESCO推進協議会事務局

なるせ・たけし ● 1985年、王子製紙株式会社(当時神崎製紙)入社。神崎工場施設部電気保全業務、87年より蒸気タービン発電業務担当。94年、シノムラ化学工業株式会社出向。2003年4月、第二種エネルギー管理指定工場(電気)のエネルギー管理員、06年7月からは第一種エネルギー管理指定工場のエネルギー管理者に任命される。静岡工場へのESCO事業導入には計画時より中心となってたずさわった。

製造ラインへのESCO事業導入

— 御社は、財団法人省エネルギーセンター主催の「第2回優良ESCO事業」において、このほど銅賞を受賞されました。特徴的なこととして、製造ラインにおけるESCO改修が注目されたのではないかと思います。ESCO事業を知ったきっかけから教えてください。

成瀬 弊社では主にコンピュータ機器のリースなどで、かねてからUFJセントラルリースさんとお付き合いがありまして、UFJセントラルリースさんから教えていただいたのが最初だったと思います。そこで、ESCO事業によるコージェネレーションの導入の可能性について検討をしたのですが、グループ会社が発電事業へ乗り出す計画があり、流動的な部分がありましたから、それでは製造ラインでESCO事業を導入できないか、ということが最初です。

現在、この工場は2005年の省エネ法改正による電気・熱合算のエネルギー消費量換算で第一種エネルギー管理指定工場となっています。改正以前には、電気において第二種エネルギー管理指定工場だったのですが、第二種とは

いえ、このことが私たちのひとつの目安になっていまして、少しでもエネルギー消費量を下げたいと考えていました。もうひとつは製造原価の削減です。しかし原価を抑えると言っても限界がありますから、これを省エネルギーによってなんとかできないか、ということですね。

現場に最適な提案と改修

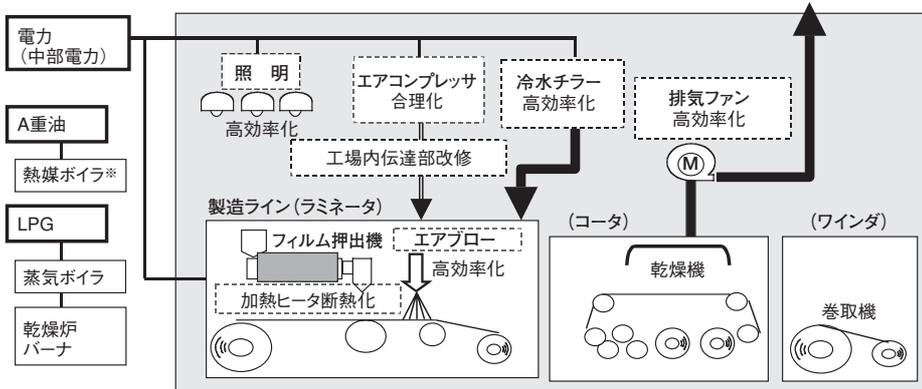
— その後の経緯について教えてください。

成瀬 製造ラインにおける導入ということで、UFJセントラルリースさんからは、自社グループでの省エネ改修などで実績のあるグンゼ開発さんを紹介されました。それで2004年夏に簡易診断をいたしまして、そこから本格的に導入へ向けての検討がはじまりました。以後、詳細診断を経て、05年夏に本格的な改修を行いました。その後、照明などでの微調整を行い、本契約の締結は05年10月です。

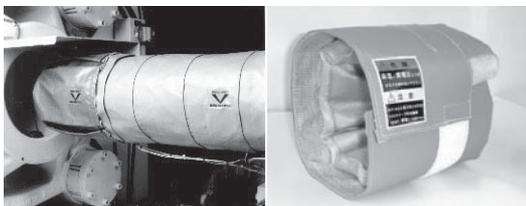
ESCO事業導入による省エネルギー効果としては、結果として高効率チラーシステムへの更新が最も大きかったと思いますが、グンゼ開発さんからは、これまで気がつかなかった発想での踏

「これまで気がつかなかった発想での提案をいただきました」

●生産フローと導入省エネルギー手法



※水の代わりに蓄熱量の多い熱媒体を用いるボイラ



断熱カバー (グンゼエコカバー)

み込んだ提案をいただきました。特に搬送用エアブローにおけるエア負荷低減、押出機での放熱ロスの改善などですね。

私どもの工場に限ったことではないと思いますが、製造ラインというのは購入した機器をただ動かすのではなく、現場で様々な試行錯誤をし、改良を重ねて最適な条件を作り出していきます。外側からは簡単そうに見える箇所でも、そこには多くの技術が集約されています。それらは企業秘密に関わる場合もありますし、外部からは技術的にもわかりにくいことが多いのです。また、当然ながらそれまでも省エネルギー対策は社内で打てる場所は打ってきましたから、そうした厳しい条件の中でESCO事業者さんとしてはいろいろな意味でご苦労されたし、大変神経を使われたと思います。

より具体的なアドバイスを

——ESCO事業を導入するにあたって、社内で議論される、あるいは説得されるということはある



ましたか。また導入されて、今、実際に感じていらっしゃるメリットについて教えてください。

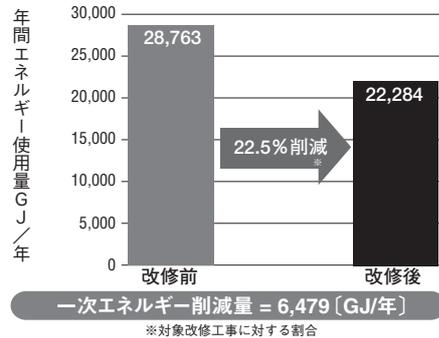
成瀬 ESCO事業導入については、省エネルギー達成という方針がしっかりとありましたから、社内的に事業導入そのものの是非を問う、という場面は特にありませんでした。ただ、例えば具体的にAという機器の交換をするのにどうしてわざわざESCOでやらなければならないのか、といった意見があったのも事実です。しかしやはり全体を通して考えていくことがメリットを生むというのが実感です。

それまで私どもがやってきたことというのは、いわば対処療法のような手法です。それではトータルでどれだけの効果を上げているのかが把握しにくいですし、全体の検証までは手が回らないのが現状です。先にも言いましたが、外側からの新しい発想をもたらしてくれることと、全体を通して検証し効果をはかりやすくなるのが、最大のメリットではないでしょうか。

——最後にESCO事業者への要望、そして御社の今後の展望をお聞かせください。

成瀬 新しいものが必ずしもいいとは限りませんが、まずは刻々と革新される省エネルギー技術の情報を知りたいということがあります。またエネルギー削減量のみにとどまるのではなく、機能としてどうなのか、さらにそれを踏まえて現場での使いやすさ、改良の可能性はどうか、そうした踏み込んだアドバイスが貴重になるのだ

●省エネルギー効果



シノムラ化学工業株式会社静岡工場

と思います。今度のことでわかりましたけれど、グンゼ開発さんのような製造ラインにノウハウを持つESCO事業者さんは、まだまだ少ないと聞いています。製造ラインに踏み込める事業者さんが増えてくると、ESCO事業のバリエーションというか、裾野がもっと広がっていくのではないのでしょうか。

弊社の今後としましては、先に申し上げたように第一種のエネルギー管理指定工場になっていますし、現状に満足するのではなく、今後、熱を含めた省エネルギーを推進していきたいと考えています。

(2007年1月17日)

●シノムラ化学工業静岡工場概要とESCO事業

シノムラ化学工業株式会社は王子製紙グループに属し、袋井市にある静岡工場は、延床面積8,000m²、契約電力は2,000kW。生産品はクラフト粘着テープ、布粘着テープ、ラベルなどに使用される剥離紙。クラフト紙、布地等の基材にポリエチレンをラミネート加工し、さらに塗工機で剥離液を塗布する代表的な製品のほか、ポリエチレンのラミネート加工の代わりに水溶性樹脂などを目止加工した、リサイクル可能な剥離紙などがある。

今回のESCO事業者は、本文にもあるようにUFJセントラルリース株式会社とグンゼ開発株式会社。契約方式はシェアード・セイビングス契約で期間は8年間。



ESCO推進協議会 第6回コンファレンス報告

2006年11月17日、東京・大手町の日経ホールにおいて、ESCO推進協議会主催第6回コンファレンスが開かれた。

「新たなエネルギーサービスの創造～ESCOの新しいチャレンジ」をテーマにした今回は、業務、産業、公共のセッションごとに、今後のESCO事業の役割や市場拡大に向けた課題などを巡って活発な議論が繰り広げられた。

ユーザーとのパートナーシップの確立を

コンファレンスはESCO推進協議会、乾久人副会長の開会の辞で幕を開けた。内外の情勢が省エネルギー推進を迫る中で、ESCO事業への要請は高まっている。こうした状況下で、ESCO事業の定義を幅広く見直す必要がでてきた。「今後のエネルギーサービス分野におけるESCO事業の果たすべき役割と将来像について新しい視点で皆さまと共に考えたい」と挨拶した。

最初に業務セッションでは、パネリストに西脇修(株式会社トーエネック)、手塚栄(株式会社サンコーシヤ)、鈴木雅登(日本工営株式会社)、井手義浩(UFJセントラルリース株式会社)の各氏

と、セッションリーダーとして筒見憲三氏(株式会社ファーストエスコ)を迎えて、各社事例発表の後、議論に入った。

業務分野は、中小規模も多く、またホテル、百貨店、病院など、各施設の利用者への影響など、様々な要因がからんでいることが多い。経済メリット優先の風潮が強いなどの課題が出された後、セッションリーダーの筒見氏からは「事業展開としては顧客提案型のビジネスであり、この面の取り組みが重要では」と問題提起があった。これを受けて井出氏は「今後は省エネのほか、快適性や安全性などの提案も力を入れたい」と発言。西脇、手塚の両氏は、「ユーザーとのパートナーシップを確立し、双方にメリットのある事業プランを構築することが大事」とそれぞれ

に語った。鈴木氏は「導入段階で省エネだけでなく、管理面の省力化や効率化など、多面的な評価をユーザーから得ることができれば理解が広まる」と展望した。このほか、業界の枠を超えた交流の場を充実させ、技術水準の底上げをはかること、また、政策、制度の面からのさらなる環境整備を求める声もあった。

続いての基調講演は、著名な評論家であり、秀明大学学頭である西部邁氏。西部氏からは、「構造改革」という言葉を聞かない日はないが、「構造」とはたんにシステムや体系ということではなく、社会の柱や底を意味するものである。そうした意味で、「資源・エネルギーは人間や国家の下部構造を支える重要なインフラストラクチャーで、何十年という長期的なプランを基に進めるも



ので、市場に任せられるものではない」と語り、インフラの再構築活動が必要と訴えた。

プラスアルファの提示がカギとなる

午後からは、産業セッション。パネリストとして宮本義久(グンゼ開発株式会社)、室賀利孝(株式会社ファーストエスコ)、桑原健一(株式会社日立製作所)、山本浩司(関電ガス・アンド・コージェネレーション株式会社)の4氏を迎え、セッションリーダーとして笹山晋一氏(東京ガス株式会社)が立った。

各氏の事例発表の後、討議に移ったが、現在、産業分野での仕事を柱とする各氏からは、納期におわれる中小企業の現状と省エネ支援の必要性、メンテナンスにおけるコスト管理の問題、ユーザーの生産工程へどのように踏み込めるか、省エネ機器のデータ不足、省エネベースライン設定の難しさなどの課題が提出された。今後の展望として宮本氏は「省エネはあたりまえ。省エネプラスアルファのアルファが大切」と語り、室賀氏は「ユーザーとの長期的なおつきあいのなかで、実績報告会を開くなど、共同運営的な形を深めたい」とし、桑原氏も「プラスアルファが実際に仕事を広げた。現場で仕事に携わる人々の負荷を軽減することも大切」と語った。また山本氏からは、より独自性のある省エネ手法の必要性と、「サービスへの対価という文化がまだ未成熟、粘り強く理解を求めたい」との話があった。笹山氏からは、こうした様々な課題と展望のなかで、必要なもののひとつとして人材育成の重要性が上げられた。

自治体との粘り強い交渉を

公共セッションでは、飯島明洋(株式会社山武ビルシステムカンパニー)、齊藤孝史(株式会社エネルギーアドバンス)、木村紀雄(株式会社ガスアンドパワー)、福田敦(日本ファシリティソリューション株式会社)の各氏がパネリストとして事例発表を行い、セッションリーダーは乾久人

(ESCO推進協議会副会長、財団法人省エネルギーセンター常務理事)が務めた。

パネル討論においては、すでに100件を超える公共部門ESCO事業実績のなかで、様々な要望が出てきた。飯島氏は、自治体の事業公募が自治体のリスク回避に重点が置かれている傾向を踏まえ、「ESCO事業公募のコストを一部自治体負担とできないか」、さらにすでに一部の自治体では行っている、メンテ費、維持管理費のESCO事業への原資化や成果報酬の検討などについて語った。木村氏は長期間契約における省エネ保証のリスクに触れ、例えば導入後3年間の実績をもっていったん評価する可能性、またシェアード契約にこだわらず、「省エネ改修として予算を確保してもらえないか」と語った。また齊藤氏は指定管理者制度導入以降、現場管理者とESCO事業を導入しようとする自治体に距離ができてきている側面を指摘した。また福田氏は、自治体がより詳細なデータを提示することで多面的なESCO事業の可能性が高まる点について語った。

最後に乾氏は様々な課題を含みながらも、「公共部門の先導的役割からもESCOの積極的な導入を要望したい」と語り、事業者と自治体の粘り強い話し合いの中で市場の拡大へと期待感を示した。

ESCO事業への強い期待示す

最後に閉会の挨拶として、三木健資源エネルギー庁省エネルギー対策課長が、世界における環境問題、エネルギー事情を踏まえ、国の省エネルギー対策を解説、またこの日の各分野における課題とそれぞれの要望も踏まえ、法整備、支援措置のいっそうの充実を図り、全体として潜在市場の高いESCO事業の発展を支援したいと語った。さらに三木氏は、日本で発展したESCO事業のアジア展開へも強い期待感を示した。

(日本経済新聞広告局作成の広告記事より一部抜粋)

ENEX2007 出展報告

財団法人省エネルギーセンターが主催するENEX2007(第31回地球環境とエネルギーの調和展、東京会場2007年1月31日~2月2日、大阪会場2月22日~2月24日)へのブース出展を行った。

専門のナレーターによるESCO事業及び導入事例の紹介、ESCO事業の紹介パネルの展示、会員会社のパンフレットの配布、パソコンによるESCO導入詳細事例の検索等の広報活動を行った。特にESCO導入事例の紹介では、導入した省エネルギー対策、省エネルギー効果等の説明に対し、熱心に耳を傾ける来場者が数多くみられた。

ESCOブースへの来場者数(アンケートへの回答数)は、東京1,700人、大阪1,500人と、過去最大の来場者を迎え盛況であった。



「アジアESCOシンポジウム」を終えて

経済成長を背景にアジア諸国でESCO事業者が急増している。
アジアにおけるESCO事業者のネットワークづくりの一環として、初開催となったシンポジウムの概要を報告する。

省エネ実現のリーダーとして

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)主催、ESCO推進協議会共催で、2007年2月1日に「アジアESCO協会ネットワークミーティング」、翌2日に「アジアESCOシンポジウム」が東京ビッグサイトで開催された。

初日に行われた「アジアESCO協会ネットワークミーティング」では、日本、中国、韓国、タイ、インド、台湾、フィリピン、マレーシア、米国、オーストラリアの10か国からの代表者20名が参加し、各国協会の活動状況および課題についての議論が行われた。

2日目の「アジアESCOシンポジウム」には、上記10か国の代表者を含め、総勢約210名が参加した。

オープニングは、NEDO 山本隆彦理事から、「本シンポジウムでアジアのESCOの現状と将来の方向性を議論し、アジアの省エネ、地球温暖化対策に成果をあげていただきたい」と主催者挨拶をいただいた。続いて、茅陽一 ESCO 推進協議会会長が、「アジアの国々で省エネ実現のリーダーとしてESCOの果たす役割が大きいと期待される。本シンポジウムの議論を通じアジア各国にESCO事業の活動を広めていただきたい」と挨拶された。

来賓として三木健資源エネルギー庁省エネルギー対策課課長から、「ESCOに関わる課題をクリアし、アジア各国でこれを共有できれば、国際的なWin-Winのビジネスモデルの進展が期待される」と挨拶をいただいた。

ESCO事業をめぐる各国の状況

オープニングに続き、「アジア、米、豪におけるESCOの現状と課題」と題し各国から報告が行われた。

アジア各国のESCO事業は、「国の省エネルギー目標の策定と、企業の市場競争力確保のためのコスト削減圧力によりESCO市場の拡大が期待される。金融整備に向けてESCOのビジネスモデルに対する金融機関への理解を高める必要がある(中国)」、「省エネ投資の推進、省エネ産業の育成等を目的として政府の支援で始まったESCO事業が、政府の手を離れて独



立する時期に来ている(韓国)」、「低いエネルギー効率(日本の1/5)と高いエネルギー輸入依存度からの脱却に向け、特に製造業の生産プロセスの改善、高効率機器導入手段としてESCO事業は有効である。政府は、ESCO事業導入の障壁であるファイナンス面の取組として低利融資、税制優遇措置を講じると共に、金融機関に対するESCOの啓発を積極的に行っている(タイ)」、「国際協力機関の支援のもとに中央政府、州政府で省エネ診断を行い、州政府で少しずつESCO事業が行われてきた。今後の目標は、政府主導から民間主導型の市場開発を行うことと、金融整備である(インド)」、「エネルギー管理指定工場の対象施設の拡大が、ESCO導入を後押ししている(台湾)」、など、国により発展状況は異なっているものの、アジア各国においてESCO事業が着実に進展していること、今後もESCOの普及拡大に尽力していくこと等の報告があった。

継続的な情報交換の場を

引き続き、「ESCO協会の活動とアジアにおけるESCO促進策」と題し、中上英俊ESCO推進協議会副会長の司会でパネルディスカッションが行

われた。

各国協会の活動概要の紹介を行った後に、ESCO事業の実施に際し各国の抱える課題について活発な議論が行われた。各国から共通で出されたESCO事業の課題は、金融整備、公共部門等の市場の整備、技術者の不足などである。ESCOのビジネスモデルに対する金融機関の理解を深めることが、金融整備につながることから、ESCO協会の事業として、金融機関向けトレーニング、金融機関との意見交換などが行われている。

今後も継続的な情報交換の場を持つことが必要であること、日本が主導しアジアESCO協会を設立することも大きな意義を持つことなどが話し合われ、シンポジウムは成功裏に終了した。

最後に、我が国並びにアジア各国のESCO関係者のために、この様な貴重な機会を提供していただいた新エネルギー・産業技術総合開発機構、並びに経済産業省の関係者の方々に深く感謝する次第である。

(文責: ESCO 推進協議会 増田貴司)

「アジアESCOシンポジウム」プログラム

開催日時 2007年2月2日(金) 10:00～17:00
開催場所 東京ビッグサイト
会議棟1階レセプションホールB

◆主催者挨拶

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事 山本隆彦氏

◆共催者挨拶

ESCO 推進協議会 会長 茅陽一

◆来賓挨拶

経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部
省エネルギー対策課 課長 三木 健氏

◆報告

「アジア、米、豪におけるESCOの現状と課題」

○「我が国における最近のESCOの状況」(日本)

○「中国におけるESCO事業」

○「韓国におけるESCO事業」

○「タイにおける省エネルギー政策とESCO推進法」

○「インドにおけるESCOマーケット」

○「台湾におけるESCO事業、台湾におけるESCOマーケット」

○「米国におけるESCO産業の動向」

○「オーストラリアにおけるESCO産業の活動状況」

◆パネルディスカッション

「ESCO協会の活動とアジアにおけるESCO促進策」
(参加国)日本、中国、韓国、タイ、インド、台湾、米国、オーストラリア、フィリピン、マレーシア

◆閉会挨拶

ESCO 推進協議会 副会長 中上英俊

アジア太平洋LNG市場の動向

石井 彰

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 石油天然ガス調査グループ首席エコノミスト

相互影響しあう6つのファクター

今後10年程度のアジア太平洋地域のLNG市場の見通しを考えるには、6つの最も基本的なファクターを考える必要がある。これら各ファクターが相互に影響を及ぼすことによって、今後10年程度のアジア太平洋LNG市場の性格・規模が規定されてくる。

まず第一に、極東ロシアを含むアジア太平洋圏の潜在ガス資源量であるが、豪州西北部海域を中心に、近年大ガス田が続々と発見されており、今後20年程度で考えた場合、需要増を最大限に見積もっても十分賄える量が存在している。各案件の開発に当たっての環境問題等の制約要因も多少あるが、全体として実需要さえあれば供給潜在量に問題はない。

第二にSpot価格準拠や、より柔軟な取引条件と言った点で、市場の性格が大きく異なる大西洋圏のLNG市場規模が急成長してアジア太平洋市場規模を上回り、種々の影響を及ぼしてることが確実な点である。特に、今後中期的にガス供給過剰が見込まれている英国向けの新規LNG案件が、英国ガスspot価格の変動に応じて、大量にspot、ないし短期契約物として間欠的に大量にアジア市場に流れ込む可能性が高い。このために、これまで日本が主導してきた

アジア太平洋市場のLNG標準的取引慣行が、次第に変容を迫られることとなる。

第三に、北米西海岸受け入れ基地がどこまで、どういうタイミングで出来上がってくるかという問題である。現在までのところ、確実に完成しそうなのは米国国境を跨いだメキシコ側の一受け入れ基地のみであり、他の受け入れ基地構想は遅々として進んでいないが、今後、洋上受け入れ基地という新しいコンセプトでブレイクスルーとなる可能性も出てきている。今後、年間1~2千万トン程度の受け入れが可能になると、事実上spot取引準拠の新規LNG案件がアジア太平洋圏でも複数開始されることになり、新規の日本向け長期契約物にとっては、量的にも契約条件的にも大きな影響を及ぼすことになる。

第四にカタール（将来はロシアも）という巨大スイング生産者の登場である。地理的に両市場の中間に位置するスイング生産者が、大西洋ガス市場の変動に応じて長期契約物にも短期・spot契約物にも大きなバーゲニングパワーを持つことになり、アジア太平洋市場構造を大きく変貌させることになる。

第五に、新興大市場の中国とインドのLNG需要は、石油価格準拠のLNG価格に非常にセンシティブだけでなく、国内ガス資源開発状況に

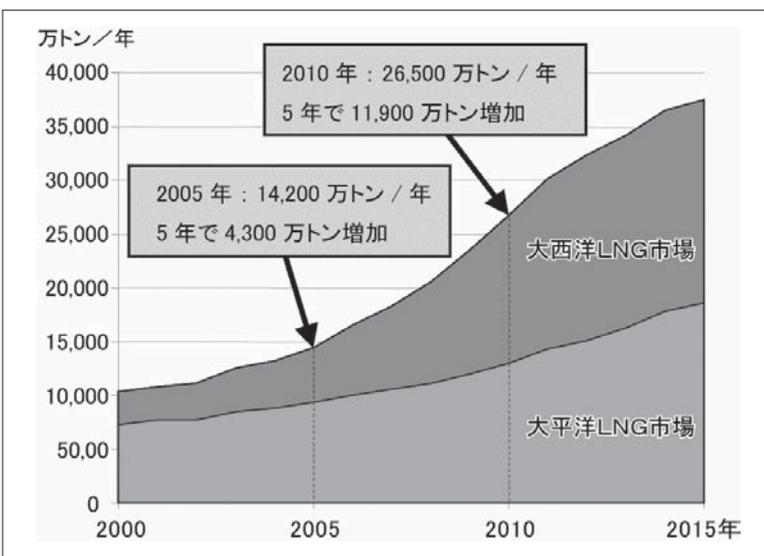
も大きく左右されることである。即ち潜在需要は大きい、着実な需要成長が見込めずに不確実性が高く、彼らと新規案件をシェアしながら立ち上げざるを得ない日本の需要家にも大きな不確実性をもたらす。

進行するグローバル化

最後にここ2、3年の石油価格高騰に伴って資源ナショナリズムが蔓延し、コストが上昇し、さらにはエンジニアリング業界等のマンパワー不足によって、世界的に新規案件が軒並み遅れ気味で、2010年以降にならないと買い手市場に戻る見込みがないことである。

以上を総合して言うと、今後のアジア太平洋LNG市場は、石油価格に応じて跛行的な成長と市場構造・取引慣行の大きな変化、即ちLNG市場のグローバル化の進行が予想される。その程度は北米西海岸の受け入れ基地の規模次第でもあるが、日本の需要家は、従来型のリジッドな長期契約を中心にしつつも、次第にグローバル化、即ちspot・短期契約化に適応していくことになる。

当面、価格条件の向上は期待しがたいが、同時に市場の流動性、柔軟性が高まり、危機耐性力は上昇する。



●新会員リスト (2006年10月～2007年2月末現在)

(07年2月末現在 正会員:77、賛助会員:53、特別会員:6、計136)

正会員

菱機工業株式会社
技術部 副部長 谷口 直博
〒921-8526 石川県金沢市御影町10-7
Tel. 076-241-1141 Fax. 076-280-7000

株式会社洸陽電機
専務取締役 ESCO推進事業本部長 山本 吉大
〒658-0041 兵庫県神戸市東灘区住吉南町1-3-7
Tel. 078-851-8819 Fax. 078-851-8829

NTTファイナンス株式会社
コーポレートファイナンス営業本部 営業企画部 営業推進担当 木原 秀人
〒105-6791 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館
Tel. 03-5445-5007 Fax. 03-5444-5770

賛助会員

田中機電工業株式会社
代表取締役 中西 伸彦
〒701-1145 岡山県岡山市横井上1696-2
Tel. 086-294-7788 Fax. 086-294-7333

●第2回会員対象セミナー報告

2006年12月5日(火)、アジュール竹芝(東京都港区)において第2回会員対象セミナーを開催した。今回のセミナーではLNG需給動向、NEDOの補助事業の状況、長期エネルギー政策といった3つの異なるテーマでご講演を頂き、146名が参加した。

はじめに、最近ESCO事業者にとって天然ガスの需給動向が重大な関心事となっていることをふまえ、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構首席エコノミスト石井彰氏より「展開期を迎えたLNGの現状と需給動向」と題し、ご講演をいただいた。

つづいて、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構エネルギー対策推進部エネルギー対策推進部主査阿野宏之様より「NEDO技術開発機構の省エネルギーへの支援策(ESCO事業関連)」と題し、ESCO事業に関連したNEDOの支援策、「住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業(建築物に係るもの)」の申請状況、採択事例の紹介、2001～04年の採択案件の実施状況についてご講演をいただいた。

最後に、経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー対策課入沢辰之介様より、原油価格の高騰はじめ世界の厳しいエネルギー情勢を踏まえ、経済産業省が06年5月にとりまとめた「新・国家エネルギー戦略」についてご講演をいただいた。

なお、講演をつとめていただいた石井彰氏から、講演要旨(7p.参照)をお寄せいただいた。あらためてお礼申し上げたい。

第2回 優良ESCO事業 結果発表(2007年)

主催:財団法人省エネルギーセンター

- 金賞 「LCD用光学フィルム加工工場でのVOCガス処理法改善による省エネルギーESCO事業」日東電工株式会社オプティカル事業本部尾道事業所/株式会社日立製作所都市開発システムグループ
- 銀賞 「平成16年度 共立蒲原総合病院省エネルギーシステム導入事業(ESCO事業)」共立蒲原総合病院/株式会社山武ビルシステムカンパニー名古屋支店
- 銅賞 ○「ESCO事業手法を活用した大阪市立総合医療センター省エネルギー改修事業」大阪市立総合医療センター/株式会社山武ビルシステムカンパニー大阪支店 ○「シムラ化学工業様ESCO事業改修」シムラ化学工業株式会社静岡工場/グンゼ開発株式会社/UFJセントラルリース株式会社ESCO事業部

●ESCO推進協議会/今後の予定

2007年度第1回理事会

日時 2007年4月12日(木)15:00～17:00
場所 都市センターホテル 6F 608会議室
議題 第9回総会資料の確認

第9回年次総会

1. 総会

日時 2007年4月27日(金)15:00～17:00
場所 椿山荘 4F ジュピター
東京都文京区関口12-10-8 Tel. 03-3943-1171
※開始時間に合わせ、無料バスの送迎を予定しています。
※送迎時間等詳細は後日ご連絡します。

議事 2006年度事業報告および決算報告
2006年度監査報告
2007年度事業計画および予算計画

2. 懇親会

日時 2007年4月27日(金)17:00～19:00
会場 椿山荘 1F ギャラクシー(プライベート庭園があります)
会費 1名様5,000円(当日会場にて集めます)

第6回茅陽一杯(ゴルフコンペ)

日時 2007年4月28日(土)
場所 久能カントリー倶楽部

第2回アジアESCOコンファレンス

日時 2007年9月27日(木)・28日(金)
場所 中国 北京市
詳細は、JAESCOホームページ <http://www.jaesco.gr.jp>
英語版ホームページは、<http://www.asiaesco.org>

事務局から

先日、ほくほく線に乗車する機会がありました。その昔、スキー場に雪が少なく、思うように滑れず悔しい思いをしたことがありますが、今年の暖冬は、その比ではありません。車窓から見えた冬景色に、豪雪地帯と習った十日町ですら、多くの雪はありませんでした。除雪費用がかからなくて喜んでいるところもあるようですが、地球温暖化が確実に、そして徐々に進んでいることを思うと、とても共感する気にはなれません。

今号のInterviewでは、財団法人省エネルギーセンター主催の「優良ESCO事業」にて銅賞を受賞された、シムラ化学工業株式会社の成瀬武志様にお話をうかがうことができました。受賞理由としては、生産ラインに入りこんだESCO事業が評価されたようです。お忙しい中、取材に協力してくださった成瀬様に、あらためてお礼申し上げます。なお、「優良ESCO事業」の受賞企業は左記の通りです。

昨年11月のコンファレンスが終わってからは、12月のセミナー、2007年が明けて、アジアESCOシンポジウム、ENEX展などと、短期間で多くの事業が続きました。ご協力いただきました方々、本当にご苦労さまでした。また、ご参加いただきました方々に御礼申し上げます。これからは、理事会、総会を始め、アジアESCOコンファレンスの準備等が予定されています。皆様の積極的なご参加、ご協力をお願いいたします。(松山)